

## 美術展印象記

(追記)

作品は再掲 ( ) は号数

白 矢 勝 一

海老原隆郎「裸婦」(8)

お父上の海老原録郎先生から二代にわたる會員で、当クラブでは若手の六十代



でいらつ  
しゃいま  
すが、十  
年余り連  
続ご出品  
頂いてお  
ります。

これまでは横浜、小樽、マッターホルン、シドニーと粋な町の風景画でしたので、今回の裸婦は驚きでした。裸婦は私も出品はしておりませんが描いております。奥が深く難しいテーマですが、表情といい、肉感、背景ともに大変上手く描き出

していると感心しました。お忙しいとは思いますが同年代で、東京在住でいらつしゃいますので、来年は懇親会会場で創作のアイデアや工夫やご苦労など直接伺えれば幸いです。

小口 文郎「錦秋」(6)

書道部部長の小口英世先生が弟さんです。親戚に日本画家がいらつしやるだけあって、生まれつきセンスがおりなのでしょう。毎年静謐な日本画作品で、観



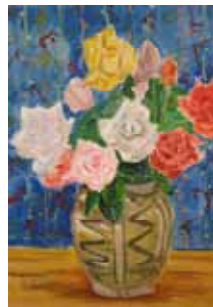
る側の心も洗われ、穏やかにさせて頂いております。日本画は顔料の扱いだけでも冬場などは特に大変と伺っております

が来年の十月開催の当美術展はこのような御作品なのでしょうか。今から楽しみ

にしております。

高木 實「花」(三三)

すでに十年以上連続してご出品頂いております。これまでは近江八幡、酒田、祇



園白川、鎌倉と由緒ある地の重厚な感じの風景画に自

然の木々が描かれている作風でしたが、今回は壺に生けられた花というテーマでした。これまでの画中では見られなかった赤や黄色といった明るい派手な色彩のバラに、独自のセンス溢れる背景とが上手くマッチされた新境地で、先生の多彩さを鑑賞させていただきました。次回はどのようなテーマなのでしょうか。同じ油絵を描いておりますので、楽しみにしております。

(来年度は10月22日、25日の予定)